

2023.03.26. 私のような者にも希望がある

第二ペテロ 3章 15節

JD ファラグ牧師

一緒に祈りませんか？ 天のお父様 本当にありがとうございます。主よ、今朝、私たちがあなたの家に集まることができ感謝します。あなたの御言葉と御教えに感謝します。主よ、私たちと共におられ、私たちの霊を静めてください。主よ、私たちの中の不安やあらゆることをあなたが解決下さいますか？「第二ペテロ」でご用意されたことに私たちを集中させてくださいますように。主よ、私たちに語りかけてください。私たちがここに集まり、共にあなたの御名を賛美できるこの時間を感謝します。イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。

おはようございます。ようこそ。座ったまま、神の御言葉を読んでも結構です。座られても構いません。私、"座られても"と言いました？ もう一度してみます。ちょっと待って下さい。ー(笑)ー

おはようございます。ようこそ。よろしければ、"立ったまま"でも結構です。わお、 今日は大変な日になりそうですね。「第二ペテロの手紙」、文字通り一節ずつ進みます。今日は 15 節から始め、15 節を全部やり遂げましょう。おわかりのように、この書を終えるのを急いでいません。主の御心なら、来週終えます。その理由は、すぐにわかるでしょう。それでは、「第二ペテロの手紙 3 章 15 節」 聖霊によって使徒ペテロが書いています。

ー II ペテロ 3:15 ー

**また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。愛する、私たちの兄弟パウロも、自分に与えられた知恵にしたがって、あなたがたに書き送ったとおりです。**

それでは、一緒に祈りましょう。 お父様、本当にありがとうございます。お～主よ。主よ、今日私たちの前にあるあなたの御言葉のこの箇所を心から感謝します。しかし、聖霊がおられなければ、私たちは理解できず、あなたが今日私たちに見せられたいことが見れず、聖霊が語られたいことを聞く耳が持てないことを、私たちは即座に認め、謙虚に告白します。ですから主よ、あなただけがお出来になる通りいつもご忠実であられる通り、私たちから雑念を遠ざけ、私たちの注意を引き、保ち続けてください。それは、聖霊であられるあなたです。私がするものではありません。ですから主よ、私たちの注意を引かれたら、私たちの人生に語ってください。主よ、お語りください。あなたのしもべたちは聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。では、ここで"ご着席"ください。どうぞ。 大変な週でした。でも、私のような者にも希望があります。 実は、それが私の話したいことです。全聖句の中で、希望に関する最も勇気づけられる真理の一つであることは間違いありません。すなわち、いつも希望はあります。私のような者にもあるのです。そのことで、使徒ペテロが、使徒パウロについて書いたことを、今から私たちに見せます。もう一度、言わせてください。使徒ペテロは、私のような者でも、常に希望があることを私たちに示します。その為ペテロは、使徒パウロを取り上げます。お許しいただけるなら、この節から伝えたいことがあります。それは「希望は常にある」、失くしたかもしれないと思う人でも決してあきらめないことです。なぜなら、ちなみに、あなたがその人でしたから。よろしいですか？ いつも希望があります。この地上で最後の者だと思える人にも必ず希望はあります。必ず希望が持てます。なぜか？ なぜなら、それが神というお方で、神のご方法だからです。そこで、ここ 15 節で、ペテロは主のご忍耐について私たちに思い出させます。そこで、ここ 15 節で、ペテロは主のご忍耐について私たちに思い出させます。そこで、ここ 15 節で、ペテロは主のご忍耐について私たちに思い出させます。

なぜなら、誰一人滅びることなく、すべての人が救われる事が、主の御心だからです。そして、主がいかに忍耐強くられるか、その完璧な例えとして、ペテロはパウロを持ち出し、引用します。

「愛する、私たちの兄弟パウロも、自分に与えられた知恵にしたがって、あなたがたに書き送ったとおりです。」使徒ペテロが使うのは、、、こう描写するのをお許しください。「広告塔」としての使徒パウロです。タルソスのサウロとも呼ばれました。ペテロが用いるのが、この男です。ごめんなさい。私なら絶対そんなことしないでしょ。いやいや、他の人を選んでいたでしょ。言っておきます。皆さんもおそらくそうだったでしょう。で、質問は、なぜペテロは全ての人の中で例えとして、パウロを使ったのか？ペテロの別れの言葉でいやしくも最後に引用した人ですよ。ペテロの最後の手紙です。彼はそれを分かっていました。ペテロは、パウロを持ち出し、愛する兄弟パウロについてを書きます。「ガラテヤ人への手紙 2 章 11 節から 21 節」このことだけでも、私ならパウロを使わなかったでしょう。パウロは、ペテロに面と向かって反対したと記されています。パウロは、みんなの前で、ペテロの偽善を公言しました。パウロは、ペテロに面と向かって、罵倒します。疑いなく、偽善者呼ばわりします。それどころじゃありません。このことだけでも私はパウロを例えとして使いません。そして、これで十分でないなら、パウロは、初代教会の敵だった人物です。この男は、キリスト教徒を迫害し、排斥することで神を助けると考え、キリスト教徒を殺した人物です。ペテロは、そのパウロを例えにするのですよ。

では、話を戻して、なぜか？ 聖霊の導きによってペテロは、なぜこの人物を主のご忍耐の例えとしたのか？ なぜなら、主のご忍耐は、クリスチャンを殺したこの男にも希望があったことを意味するからです。彼のような者に希望があるなら、私のような者にも希望があります。主のご忍耐が、パウロの救いにつながっただけでなく、パウロを深く、力強く用いる事にもつながりました。考えてみてください。使徒パウロ。神は、新約聖書の大部分を書くため用いる事を選ばれました。使徒パウロを。私なら選ばなかったでしょう。皆さんも選ばなかったでしょう。そんな霊的な目で私を見ないでください。私は間違いなく、他の人を選んでいたでしょう。結局、この男は私の人々を殺した。彼らを殺したのです。えっと、、、他に誰かいます？ しかし、使徒パウロが聖霊の導きによって、コリントの教会に書き送ったように、神は、知恵ある者を恥じ入らせるためこの世の愚かなものを選ばれます。

強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選ばれます。(I コリント 1:27 参照)

なぜ、神はそうされるのでしょうか？ なぜ神は、このような者を選ばれ、用いられるのか？ このような者に希望があるのなら、私のような者にもきっと希望があるはずで、なぜ神はこのような者を選ばれるのか？ なぜこのような者に希望があるのか？ なぜ私のような者に希望があるのか？ なぜなら、そうすると、神だけがご栄光を得られるからです。そうでしょ？ つまり、この男に手柄を立てようと思っても立てられません。あなたがこの男を見てもこうなります。「神にしかお出来になられない。」それがポイントです。神だけが、タルソスのサウロを「使徒パウロ」にお出来になられます。神がそうされたことが嬉しくありませんか？ お、ところで、そのことが、私たちに希望を与えます。自分の人生のそういう人へ。今、こう言いながら、彼らのことが頭に浮かびます。少なくともそうであってほしいです。彼らのために何年も祈っています。決してあきらめません。「ええ、でも、それは……。絶望的に思えます。」お、本当？ パウロに聞いてみるといいかもしれない。むしろ、ついでにペテロに聞いてもいいかもしれません。

「ちょっと、待って。ペテロとパウロは、陰悪な関係だったのでは？」どうやら違います。私たちは読み込み過ぎると大きな間違いを犯すと思います。ペテロは、霊的背骨の通ったパウロを尊敬していたと

思います。

**「愛する者が傷つけるのは誠実による。」(箴言 27:6)**

信頼できます。このペテロは、福音書のペテロとは別人ですよ。このペテロは、キリストのもとで恵みを受け、成長したペテロです。このやり取りが起こるたび、パウロとペテロの間でこのような対立が起こるたび、ペテロはそれを感謝し、聖霊がペテロに、神の恵み、神の憐れみ、神の愛、神の忍耐の例えとしてパウロを使うよう促すほどです。そう私たちは、神に私たちには忍耐強くいて頂きたいのに、他人に忍耐強くありません。さあ、正直になりましょう。私たちは、神に自分には慈悲深さを望むのに、他の人には慈悲深くありません。「ルカの福音書6章」をご覧ください。あとで、ルカについては戻りますから、指を置いておきたいでしょうけど、27節から読みたいと思います。イエスが仰います。これもきっと聞き覚えがあるはずです。

ー ルカ 6:27 ー

**しかし、わたしはあなたがたに言います。... (興味深いですね。) ...あなたがたの敵を愛しなさい。あなたがたを憎む者たちに善を行いなさい。**

ー ルカ 6:28 ー

**あなたがたを呪う者たちを祝福しなさい。あなたがたを侮辱する者たちのために祈りなさい。**

なるほど。問題発生です。まだ29節まで行ってませんのに。待って。これはパウロのような人物を指します。パウロは敵でした。パウロは、クリスチャンを憎んでいました。パウロは彼らを呪い、殺していました。イエスはここで聞いている人たちに向かって話しておられます。これは資格ある人ですよ。

ー ルカ 6:27~28 参照 ー

**彼ら(敵)を愛し、(憎む者に)親切にし、(呪う者を)祝福し、(侮辱する者のために)祈りなさい。**

ステパノ。パウロがそこにいた時、『使徒の働き』に記されている、最初の殉教者ですよ。私は、パウロが(ステパノの死刑に)署名し、支持し、承認したと信じています。福音を説いて石打ちの刑に処せられたステパノの死を承認した。タルソスのサウロは、内外から、めった刺ししました。そして、ステパノ。彼は息を引き取るとき、間違いなく、タルソスのサウロが、すぐそこにいるのを知っていました。ステパノは祈ります。救い主のような祈りをします。

主よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。(使徒 7:60 参照/ルカ 23:34 参照)

ステパノは、サウロの救いを祈ったと本当に信じます。そして、神はその祈りを聞き、神はその祈りに答えてくださいました。自分自身に正直になりましょう。タルソスのサウロのために祈る事にあまり興味がないのではないですか？ 彼に敵対して祈ります。彼のためには祈れません。

しかし、イエスは仰いました。「いいえ、彼らのために祈りなさい。」なぜなら、敵のために祈るとき、あなたの敵に対する心が変わられます。祈りは祈る人を変えます。私たちを変えます。

では、(ルカ6章)29節。あなたの頬を打つ者には容赦なくぶちなさい。おお、そんなこと書いてませんね。ごめんなさい。JD版でした。お許しください。

ー ルカ 6:29 ー

**あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬も向けなさい。あなたの上着を奪い取る者には、下着も拒んではいけません。**

ー ルカ 6:30 ー

求める者には、だれにでも与えなさい。あなたのものを奪い取る者から、取り戻してはいけません。

ー ルカ 6:31ー

人からしてもらいたいと望むとおりに、人にしなさい。

ー ルカ 6:32ー

自分を愛してくれる者たちを愛したとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも、自分を愛してくれる者たちを愛しています。

ー ルカ 6:33ー

自分に良いことをしてくれる者たちに良いことをしたとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも同じことをしています。

ー ルカ 6:34ー

返してもらおうつもりで人に貸したとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも、同じだけ返してもらおうつもりで、罪人たちに貸しています。

それが私たちです。あなたを好きでない誰かがいるとわかると、「まあ、私もあんまり好きじゃない。」となります。おおでも、逆に、誰かがあなたのことを本当に好きだと聞くと、「ええ実は、私も結構好きです。」となります。それが何の益になるのですか？

ー ルカ 6:35ー

しかし、あなたがたは自分の敵を愛しなさい。彼らに良くしてやり、返してもらおうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いは多く、あなたがたは、いと高き方の子どもになります。いと高き方は、恩知らずな者にも悪人にもあわれみ深いからです。

「ローマ人への手紙 24 章」では神の優しさが人を悔い改めに導きます。実は、「優しさ」だけを題材にした説教を考えています。「優しさ」だけです。おお、神の民としての私たちは、優しい者ですか？ 言わば、見返りを求めないで誰かに何かを与えるとき、クリスチャンの霊的な成熟度がわかると言われます。ここでイエスの仰る通りにすると、神は目に留めて下さいます。神はいかなる人にも借りを負わされません。神には帳簿があられ記録されます。ちなみに完璧な帳簿ですよ。神はあなたがたをしたことを全てご存知で、あなたが誰かに与えたものを、彼らがあなたに返せないこともご存知です。神はそのことを記録され、あなたが想像もできない方法で報いてくださいます。しかし、36 節に注目してください。

なぜなら、主が私たちに見せられたいこの節「第二ペテロ 3 章 15 節」の要点が書かれているからです。

ー ルカ 6:36ー

あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くなりなさい。

ー ルカ 6:37ー

さばいてはいけません。そうすれば、あなたがたもさばかれません。人を不義に定めてはいけません。そうすれば、あなたがたも不義に定められません。赦しなさい。あなたがたも赦されます。

ー ルカ 6:38ー

与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量って懐に入れてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえるからです。」

では、ペテロに話を戻します。ペテロがここで何をしているかわかりますか？ ここでペテロは何をしたのか？ 彼はここで、イエスが仰ったとおりのことをしました。ペテロはそういう慈悲を受ける側です。

なぜか？ なぜなら、慈悲深いからです。彼が慈悲深くある同じ尺度でそれを受けます。 彼は恵みを受ける側です。ところで、これを私が指摘しないと大失態になってしまいます。こういうのは、あまりにも文脈から外れています。多くの金目当ての者よって、名指しで、主張し、吹聴し、掴み取る。失礼ながら、信仰の教師が、

「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられます。詰め込んで、揺すって入れて～～」そういうことではないと思います。私の間違いでなければ、慈悲についての文脈です。つまり、あなたが示す慈悲の尺度が、あなたに示される慈悲の尺度となる。全てに渡って効果があります。忍耐という言葉を入れてみましょう。あなたが使う忍耐の尺度は、あなたが受ける忍耐の尺度と同じ。その方程式に好きな言葉を入れれば、うまくいきます。神が私たちに、慈悲深くあられるよう祈りますね。

「わかりました。あなたは慈悲深くないですね。」主が私たちに祈りを教えられたとき、効果的だと愛称する「主の祈り」は、本当は「主の祈り」ではありません。主が教えられた祈りは、「私たちの祈り」です。

**「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいませ。」(マタイ 6:14)**

お付き合いください。神がどれだけ私に慈悲深いか、神がどれだけ私を赦されたか理解し受け入れ、私は誰かへの赦しを保留にするのか？ それはなぜ？ その理由のひとつは、うぬぼれて、自分を高く評価しているからです。そうすることで、彼らを見下します。「自分は他人より優れていると考える」それは問題ですね？ それについて話す必要があります。人は誰も、自分が他人より優れていると思いがちです。これが起こると、いつも結果として、私たちは自惚れ、高ぶり満載です。神が示してくださった恵みと憐れみを私たちは完全に無視します。それは言い訳ではなく、私たちが他者に親切で慈悲深くない理由を示します。使徒パウロが「ローマ人への手紙 12章3節」で書いていることを聞いてください。

**ー ローマ 12:3 ー**

**私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってははいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。**

言い換えれば、あなたは視点を変えることが必要です。なぜなら、ある時点で、あなたはこの概念を気に入りました。「おい、私は良いけど、あなたはダメ。」あなたは自分が何者だと思っているのですか？

ルカに戻しましょう。これは、イエスが語られる例え話です。18章9節、

**ールカ 18:9ー**

**自分は正しいと確信していて、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された。**

ちょうどそこにいる者に対して。それだけでもね。自分が良いと思い、自分の義、自分自身が高ぶりに満ちると、当然、他人を見下します。セット販売ですよ？ ここに例えがあります。この例えの前置きが必要で、ちょっとお付き合い下さい。私自身も含めての話なので、これをしている隣の人と同罪です。

このような例えや聖書の一節を読むとき、あなたはいつも自分を最も好ましい光で照らします。これは対照的な例え話の一つです。悪い者と善い者ですよ？ そして、私たちはいつも善い者です。頼みますよ～。私あってます？ (会衆：はい) では、皆さんに、対比の「箴言 (13～19)」と呼ぶものについて話しましょう。「義なる者はこうするが、 悪しき者はこれをする！」 するとあなたは「あ～彼らは悪しき者だ！」 いや、悪しき者とはあなたです!!! 自分がそんなに義だと思っているのですか？ いいえ、そ

れってあなたです。もう一步踏み込んだ話をします。もちろん！ その方法を話します。私がこれを言う時、隣の席の人を見ないでください。もうされましたね。-(笑)- 触れてはいけない話(部屋の中の象)それを考えちゃいましたね。しかし、あなたはこの人を見て、その人を見下します。あなたが考えるのは、その人は罪びとで、あなたは義なる者。それを高ぶりと呼びます。そして、このような説教を聞いて、あなたは自分でこう思う。「誰それが、これを聞く必要があるわ。あの人にリンクを送ろうっと。」明らかな兆候です。「そう、これは私のことじゃない。牧師さん、この箇所の教えが上手ですね。おお、この場にあの人がいたらと思うね。」実のところ、あなたがこれを聞く必要があります。よし、では、ここで例え話をしましょう。10 節、

#### — ルカ 18:10 —

「二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。

ここで止めます。「宗教指導者と IRS (国税庁) の捜査官がと言うのですか？」そうです。繰り返しますが、それを視野に入れて下さい。「ええ、もちろんパリサイ人は、宗教指導者で、彼は義なる者ですよ。」あ〜あ〜あ〜響きある祈りですよ。そして、国税庁 (IRS) の捜査官。彼はそこで何をしていますでしょう？ 11 節、

#### — ルカ 18:11 —

パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。... (この祈りを聞いてください。) ...『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、... (非常に興味深いですよ。) ...この (隣で祈っている) 取税人のようでないことを感謝します。

ここに御言葉があります。ここに教訓があります。私たちが祈るとき、あなたが誰かのことを思いながら、こんな風に祈っているとき、おっ、12 節は、もっと酷くなります。

#### — ルカ 18:12 —

『私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』

訳すと、皆さん、これが彼の祈り、宗教指導者の祈りです。訳すと、「神よ、ありがとうございます。

私は他の邪悪な、汚い、腐った、臭い罪びとたちとは違います。ここにいるこの男のような。」

国税局 (IRS) の捜査官はその祈りを聞いていたのでしょうか？ わかりませんね。13 節で判明します。なぜなら、こう記されています。

#### — ルカ 18:13 —

一方、取税人は遠く離れて立ち、... (きっと出来なかったのでしょうか。) ...目を天に向けようともせず、... 神から与えられた想像力で、この光景を思い浮かべてください。彼は実際、この宗教指導者から離れ、距離を置いた。自分は、この宗教指導者の近くにいる資格はないと思っていたのかもしれませんが。結局のところ、彼が国税庁 (IRS) で働いているのは誰もが知っています。ですから、彼はよそよそしい感じ。その対比は、とても鮮明です。なぜなら、こんな風に祈るパリサイ人の姿がわかるからです。「神よ〜、ありがとうございます。」胸を張って、鼻を高くあげて。ここで過剰にドラマチックにしているのではなく対比をつけようとしているのです。それがこの例え話のポイントだからです。この男と、あっちの男を対比させるためです。取税人は伏し拝み、胸を叩いている。彼の祈りはどのようでしょう？ (目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。)

...『神様、罪人の私をあわれんでください。』

パリサイ人の祈りは、かなり精巧で、雄弁であるとさえ言えるでしょう。こっちの男の祈りはどうです

か？『神様、私をあわれんでください。』彼は、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。地に顔を伏しつけています。イエスの言葉を聞いてください。14 節、

— ルカ 18:14 —

**あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。...**  
その理由はこうです。注意して聞いてください。

**...だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」**

私がこう言ったらどうでしょう？ 神は謙虚であります。ギアが固まりますか？ こう考えてください。神はすべての力をお持ちで、全知全能で、偏在され、しかも謙虚であられる。主はただ強いだけではあられません。すべての力をお持ちであられ、なのに謙虚であられる。イエスが地上におられた時を考えてください。だから子どもたちは、イエスに惹かれ集まり、怖がらなかったのだと確信します。イエスは、親しみやすいお方でした。幼い子どもたちが、駆け寄りたくなるような魅力、救い主のどういう点なのでしょう？ 子どもたちは、私のところに寄って来ず、私から逃げていきます。救い主の表情や気質はどうであられたのでしょうか？ 愛、謙虚さ、親切、またその言葉が出てきましたね。優しさ、慈愛に満ちておられました。子どもたちは、主のもとに来たがります。主は柔和であられました。どうかどうかどうかお願いだから、柔和と弱さを決して同義にしないでください。このお方は、神の顕現（化身）です。完全に人であられ、完全に神であります。全知全能の神のすべての力を自由に使うことがお出来になりました。それでいて、柔和であられるのは、権威を制御されているのです。全能で、尚かつ謙虚であられるのを想像できますか？ 私たちはこのことを何もわかりません。私たちにとって異質です。権力は腐敗し、絶対権力は完全腐敗すると言われていました。あれが御力であり、しかも主は謙虚であられました。聖書に繰り返されているのは、特に、前述の「箴言」を中心に、人間の高ぶりを描写する箇所が数多くあります。その描写は、醜い絵です。神がこう仰るほど、高ぶりは醜いです。「わたしから離れなさい！ わたしには、その高ぶりが遠くからもわかる。高ぶる者のそばにはいられません。わたしは謙虚だからです。」高ぶりの隣に謙虚さをおくと、悲鳴をあげるのが事実ではないですか？ 高ぶりはさらに高ぶり、謙虚はさらに謙虚になります。対照的だからです。神は高ぶる者を遠くから知っておられます。ヤコブは言います、

「神は高ぶる者をしりぞける。」（ヤコブ 4：6 参照）

聞いてください。私にはたくさんの敵がいます。最後に必要なのは、神が私に抵抗なさること。でも気付いていますか？ あなたが高慢な態度をとるたびに、あなたが心に高慢さを抱いていると、神はあなたに抵抗なさいます。神はあなたに抵抗され、あなたから遠ざかります。聖書の 1 節をご存知でしょうか。

**『主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。』（ヤコブ 4:10)**

よろしければ、個人的にしてみました。再度、これは J.D.バージョンです。私は高ぶりの博士号を持っているので、そうせざるを得ませんでした。私は、自分の高ぶりには謙虚で、謙虚さに高ぶります。私に尋ねて下さい。教えます。ですから、その特別な 1 節を個人的に変える必要がありました。私にとってはこう読めます：

「JD、主の御前にへりくだりなさい。主があなたをへりくだらされる前に。」

いいえ、本当です。なぜなら高ぶりは、前回も確認しましたが、滅びに先立ちます。（箴言 11:2 参照）ここで、イエスはこの意味深な原則を繰り返し述べられます。ちなみに、これはあなたが破らない原則で

す。逆らい破るとあなたを壊します。あのすごい描写を思い出します。海の船長が前方の光を見、無線で先に言う。「こちらは、キャプテン〇×※#」自分の階級を並べ立て、言う。「航路変更しなさい。我々はそちらの方向に向かっている。」その応答は、非常に緩い言い換えですけど、こんな風に返ってきます。

「私は航路を変えない。航路を変えるのはあなただ。」おぉ、今、船長が激怒します。「私を誰だか知らないのか？ この船の船長は私だ。私は航路を変えない。航路を変えるのはお前だ。」すると返答がきます。「おぉ、我々はこうします。いや実は、失礼ながら、船長さん、あなたが航路変更するんですよ。なぜか知りたいですか？ 私は灯台です。」

それについて、ちょっとお時間差し上げます。かなり奥が深いのは分かっています。それが、神の御言葉です。神の御言葉の原理で真理です。それに逆らってははいけません。もし逆らえば、御言葉を壊すのではなく、御言葉があなたを壊します。御言葉が、あなたをへりくだらせます。これはその原則のひとつです。おぉ、あなたは自分を高くするのですか？ もっと自分を高く評価するのですか？ あなたは、ええ謙虚になるでしょう。ここで、面白い考えがあります。言葉遊びではありません。

謙虚/humility は、辱める/humiliate の由来とご存知ですか？ ごきげんよう。分かりましたか？ それは、自分を高ぶらせるたびに、謙虚/屈辱が自分自身にもたらされます。

「牧師さん、話の向かう先は？ むち打ちになってしまいました。第二ペテロ 3 章 15 節でしたよね。で、ルカの福音書の 2 人の男について、1 人は国税庁の捜査官で…これはどう全てにあてはまるのですか？」お聞きくださり大変嬉しいです。その答えは、ペテロは謙虚になりました。そして、使徒パウロもまた謙虚になりました。この終わりの時のこんにち、キリスト教会で失われた芸術は、何かご存知ですか？ 一言で言えば「謙虚さ」です。謙虚さです。お気づきですか？ 弱者に対する同情するとき、、、私たちは弱者に対する同情したくなりますね。それは謙虚さゆえです。滅多に使いません、映画を例に出すのは、殆どしませんけど、「映画ロッキー」の例えをこの機会に逃すわけにはいきません。「ロッキー 28」じゃないですよ。一番最初の「ロッキー」の映画です。アポロ・クリードがいます！！ こちらに、ロッキー・バルボアが登場。突然のサウスポー。入場は、華やかで誇らしいですよ。🎵🎵🎵フラッシュバックしますね。彼が入場、バンドが演奏され登場すると、「あの人、誰？」誰が誰？ではなく、「彼は誰？ お～この男にチャンスを与えるなんてアポロ・クリードはいい奴だな。おぉ、あくまでショーだもんね。人々のためにショーをするだけ。」誰も、この男が勝つなんて望みません。そこにロッキーが入場。「あ、いや、道を間違えていますよ。この下を歩いたほうがいい。」みんなアポロ・クリードを讃えています。戦いの始まりは、誰もが「アポロ！アポロ！」です。半分経過して：「ロッキー！ロッキー！ロッキー！」映画の終わりには、私たちは、もしかしたら、私だけかもしれませんが、「ロッキー・バルボアにこのアポロ・クリードを倒してほしい。」彼は弱者です。なぜ応援するのか？なぜなら、ロッキーはこうです。「アポロに感謝です。同じリングに立てるとは、なんという深い特権でしょうか。」おぉ、これは謙虚さです。そう見えます。そして、あのコーナーにいるのが高ぶりです。「戦いの準備だぜ～～！」謙虚は魅力的で、高ぶりは醜いからです。使徒ペテロと使徒パウロについて、また冒頭の質問に答える理由があるとすれば、使徒ペテロが聖霊に導かれ、使徒パウロを主のご忍耐の例えとして用いたことです。「いやいや、みんなあの男のことは諦めている。」いいえ、あの男には希望があります。神があつた男を変えられます。この神の人たちについて言えることは、「彼らは『謙虚』だった。」です。「謙虚」です。さて、ペテロについてですが、もう一つ言わなければなりません。なぜなら、私たちは彼をよく知れましたね？ 福音書に出てくるペテロとは全然違いますね？ 福音書では何度、彼は



辱めを受けたのでしょうか？ 何度、謙虚にされたのでしょうか？ 彼がへりくだらされる度に、自分を高く上げていたのが分かりますか？ ひとつだけ例を挙げてもいいですか？ えっと、、、ええ、たくさんあります。そうだ、これでいきます。いや.....たくさんありますからね。OK。ピリポ・カイサリア。

一緒にイスラエルに行った方のため、 それを使います。そこで、イエスは弟子たちを連れて、ピリポ・カイサリアという非常に悪魔的場所に行かれました。彼らは、パン神を崇拝していました。 ハデス（黄泉の国）の門でした。"パニック"とい単語の由来です。 恐ろしいことでした。イエスは、彼らをこの場所に連れて行き、こう質問されました。

**「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」(マタイ 16:15)**

さて、ここでペテロが自信に溢れ言います。

「あなたは生ける神の子キリスト（救い主、メシア）です。」(16節)

そして、イエスはこうです。「ペテロよ、良い答えです。」

記述にはないですが、 ペテロは、他の弟子たちに振り返って、こう言ったのではないのでしょうか。

「聞いたか？ 私は正解した。あなたたちは口ごもった。」「ペテロよ、良い答えです。」そして、そのわずか数節後に、自分を高くあげた後のペテロにイエスはこう仰います。「下がれ、サタン。」(マタイ 16:23)

福音書で、ペテロが自分を高くあげるたび、彼はへりくだらされました。効果があったと思います。ですからこの人物は、成長し、成熟しました。彼は謙虚な人になりました。 昔の彼とは違います。しかも、あの時パウロが叱責したペテロとも違います。なぜなら、謙虚さに付随するものは、教えやすさだからです。それを簡単に説明して、締めくくりましょう。教えやすいということは、謙虚です。 切り離すことはできません。修正が可能です。そう、ペテロは正されました。謙虚にならざるを得ません。なぜなら高ぶり満載なら、「誰が私にそんなことを言うのか！！ なにしろ、私は最初の"使徒"なんだぞ。君は、その次の使徒。」いや、そうでしょ？ なぜなら、パウロは、自分の使徒としての立場を守る必要がありました。 手紙でそれが分かります。それはまた別の機会の別の説教ですけど、ペテロはきっと、その切り札を使って、演出することができたのに、しませんでした。彼はそれを受け入れました。なぜ受け入れたのか？ なぜ受け入れたのか？ なぜなら、彼は自分を謙虚にしたからです。最終的にそんなの価値がないと思うまで、彼は何度も屈辱を味わいました。(笑) 謙虚な方がもっといいと思います。謙虚さに越したことはありません。なぜなら、謙虚になれば、その分、高められるからです。これをひっくり返してみましよう。ペテロが高くあげられたのは、いつも謙虚だった時です。そして、それは、私たち一人ひとりにとっても同じです。聖書全体を通して、何度も何度もそれが分かります。ヤコブ(2章)、それをとても劇的な形で表現します。彼は、教会の礼拝に誰かが入ってきて、彼らが自分たちをすべてだと思ひ込む例えを使います。彼らは煌びやかに入ってきます。彼らは入ってきて、「予約席」と書いてあるところに座る。お付き合いくださいね。彼らはそこに座ります。(高ぶって)誰かが行って言わなければなりません。

「申し訳ありませんが、ここはあなたの席ではありません。他の人の席です。後ろに行って他の席を探してください。」

それはとても長い通路です。あまり広い礼拝堂ではありませんが、とても長い距離になります。なぜなら、みんながあなたをこんな風に見るからです。 どれほど恥ずかしいですか？ 自分を高めて、謙虚にさせられました。聖書で、謙虚さを見るたびに、神が彼らを高められるのがわかります。また逆に、誰か

が自分を高くあげるたびに、神は彼らを謙虚にされます。ここが核心です。希望があります。決してあきらめないでください。神は御出来になられます。ペテロでさえも。ペテロのことも良く分かりません。今はパウロどころじゃありません。ペテロのことが分かりません。福音書で、散々心を痛めさせられたでしよ。いつも彼ですよ。水の上を歩いた時はどうでしたか？ 彼はそのせいで悪評が多いです。いつも話しますが、イエスから目を離し、沈み出したペテロは、3語の祈りを捧げます。神が3語の祈りに答えてくださることに感謝です。

「主よ、お救いください。」(3語)

沈みそうなところを、主が救われる。私たちは、ペテロをかなり厳しく非難します。誰かがユーモアたっぷりに言います。それはユーモアに過ぎませんが、乗り越えました。ユーモアは真剣ですけど、やっぱりユーモアです。誰かが提案したのですが、ペテロが水の上を歩いて、イエスから目を離したとき、弟子たちを振り返って、「見てみて～私は水の上を歩いている～」と言ったから沈み始めた。なぜなら、彼は自分が水の上を歩いていると高ぶったから。

「牧師さん、何についての話しですか？ ポイントは何ですか？」私のポイントは、高ぶりは常に崩落につながります。しかし、このペテロとパウロは、どちらも謙虚でした。はい、彼らはおそらく、あなたが希望を持てると思われる最後の人たちです。

「しかし、神は。」神がこの人たちに何をなさったかを見てください。神が召された弟子たちの人生だけだと思いますか？ 私なら彼らを絶対に召さないでしょう。私だったら、完全に12人違う人を召したでしょうね。特に、ユダは召しませんね。ちなみに彼は、本当に一番すごい経歴の持ち主でした。しかし、イエスは弟子たちを召す前に、一晩中祈り、断食されました。そこに分かることがあるはずですよ。では、締めくくります。「お願いします。」と仰る方もいらっしゃいますね。ちょっと違うことをしたいです。最近、私が祈りの日記に書いたことを分かち合いたいと思います。それが皆さんの励みになることを希望しながら、そうします。なぜなら、神の慈悲、恵み、愛、優しさ、思いやり、長いご忍耐をいただいた私という者だからです。そして、希望がないと思うような人がいるとしたら、それが私でした。神が何をされたか見てください。皆さんの牧師について、このことを知っているかどうか分かりませんが印象的な経歴ではありません。経歴もありません。

神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選ばれました。(Iコリント1:27参照)

「牧師さん、本当に素晴らしかったです。」と私に言われたときは、主を褒め称えましょう。私は何もしていません。私はいつもこれが大好きです。

「うあ、どこの神学校に行ったのですか？」「私は、高校をギリギリで卒業しました。何を言ってるんですか？」

ですから、神だけが栄光を得られます。この記録を分かち合いたいです。ただ、心からです。主と話すときちょっと感傷的になるので、編集しましたが。

「イエス様、私に慈悲深くあってくださりありがとうございます。私へのあなたの底知れぬ、理解しがたい恵み。私へのあなたのご忍耐と長い苦しみ、そして、もっと重要なことは、私へのあなたの絶対的な無条件のアガペーの愛。今、イエス様、私が慈悲深くなれるよう助けてください。恵み深く、忍耐強くなれ、そして、もっと大切なのは、あなたのアガペーの愛を他者に持てますように。」

ここでペテロがしたようなことをしたいのです。パウロにとってのペテロのようになりたいです。逆もまた然りです。カポノ、上がってきてください。ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様。ああ.... 私たちのような惨めな者を救ってください、驚くべき恵みです。この世で「希望がない」と言われるような者のために。あなたは「そうではない。」と仰います。あなたは御出来になられるからです。誰を取られても、あなたは何でも御出来になられます。あなたは希望の神であります。希望はいつもあります。主よ、落胆している人のために祈ります。落胆が絶望に、絶望が失望になっていきます。あなただけが御出来になられる通り、常にご忠実であられるように、駆けつけて下さり、彼らの心を励まし強くして下さいますように。彼らの希望を、自分自身ではなく、主であるあなたにあって新たにしてくださいますように。私たちは皆、こう言われる者の内に数えられるようになりたいです。

「なんと、彼らは主に望みを託していたのか。」主よ、あなたに望みを託す者は、誰も失望することはありません。希望をありがとうございます。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7